

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自主 創造 共生」
○自らの可能性を求め、課題解決に向け粘り強く取組む力を育みます。(知)
○相手の人格を大切に、正しく判断し行動する力を育みます。(徳)
○すべてのいのちを大切に、健康でたくましい体や豊かな感性を育みます。(体)
○あいさつを大切に、社会への視野を広げ、共に生きる力を育みます。(公・開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

Table with 2 columns: 自主的、主体的に行動できる生徒 / 自分と他者を大切に協働できる生徒 and 具体化した資質・能力 (情報を活用した発表力, コミュニケーション能力, 体力・運動能力, etc.)

中期取組目標

・個別最適で協働的な学習を推進し、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成します。
・全ての教育活動を通して人権・道徳教育の充実をはかり、誰もが、安心して、豊かに生活できる学校づくりに努めます。
・生徒に健康や安全、食事について考えさせ、生涯にわたりよりよい生活習慣や運動に親しむ態度を養います。
・様々な活動を通して、持続可能な社会の担い手となるための意識や行動力を育みます。
・教職員一人ひとりが学校経営に主体的に参画し、専門性を高めるとともに、チーム学校でマネジメントを推進します。
・開かれた学校をめざし、学校・家庭・地域・諸機関との協働を通して、信頼される学校づくりを推進します。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善) and 具体的取組 (①授業研や生徒による授業評価で授業改善を進め、毎時間の授業を充実させる。②ICT活用など様々な手法で、主体的・対話的で深い学びをつくる授業を展開し、知恵をはたかせ生きる力を育む。③学習内容をしっかり身につけられるよう学習相談等を実施し、個に応じた支援を充実させる。)

学力向上に関わる本校の状況
(1)学力に関わる児童生徒の実態
昨年(令和4年度)の学力状況調査では、すべての学年で教科学力の平均は市平均以上であった。
学力に対して生活意識が低い学年があるのは、生徒たちの主体性や自己有用感を育む場面が減少したことが要因の一つとされる。コロナ禍による学校行事の中止、部活動の制限が重なり、何事にも全力で取り組む自分や自分のよいくところなど自己を意識する場面が少ない状況が続いた。高い学年があるのは、小学校での教育活動を通して自尊心や自己肯定感を育んできたことが要因の一つであると考えられる。
生活意識と学習意欲の結果がほぼ一致したことを考えると、生活意識を変えることが学習意欲向上につながると考えられる。

今年度の目標
ICT活用や主体的・対話的な言語活動を通して、発表力やコミュニケーション能力、表現力を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン
上半期: 国語 単元評価カードを通して、個々で身に付けたい資質・能力を踏まえながら学習の見通しを立てたり振り返りを行う。社会 基礎・基本を徹底するために小テストなどを行い、知識理解の徹底を図る。思考判断の能力を高めるために、「なぜ」「どうして」を問いかけて、文章にして、自分の言葉として書かせるようにする。
下半期: 国語 グループワークを通して、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝え合う力」を高める。社会 グループワークを通して、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝え合う力」を高める。プレゼンテーションを行うことで表現の能力を高めるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野: 人権・道徳教育
具体的取組: ①道徳を通して、考え、議論させ、いじめの未然防止などにつながる判断力や心情、態度を養う。②規範意識の向上や思いやりの心、人権を尊重する豊かな心を育む教育活動を実施する。③互いを認め合い、支え合い、高め合う学校・学年・学級集団をつくる。

豊かな心に関わる本校の状況
・生徒たちは落ち着いた生活を送っており、人の気持ちを考えて行動することができるが、自分にはよいところがあるという自己肯定感や最後までやり遂げたという達成感はやや低い。
・昨年度は、職員の道徳研修を実施し、指導案の書き方や道徳授業の進め方の研修を受けた。各自振り返りをし、道徳授業方法に生かすことができた。
・国際平和スピーチコンテストや人権作文の取組を通して、平和についての認識や人権についての意識を高めた。

今年度の目標
全ての教育活動を通して人権教育や道徳教育の充実をはかり、誰もが安心して豊かに生活できる学校づくりに努め、体験活動や行事などを通して生徒が生き生きと自己肯定感を高めるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン
上半期: 担任道徳やローテーション道徳を通して、幅広い視点から道徳教育の充実をはかる。国際平和スピーチコンテストや人権作文の取組を通して、平和についての意識や人権感覚の向上をはかる。特別支援体制を時間割の中に組み込み、支援が必要な生徒が安心して取り組める指導体制をさらに充実させる。
下半期: 確かな人権感覚・意識を育成するために生徒の現状をふまえた人権研修会を実施し、教師が人権感覚を研ぎ澄ますことにより、授業や行事への取組や日常での学校生活の中で生徒の人権感覚を高めていく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野: 健康教育
具体的取組: ①体力・運動能力調査結果などから課題を見つけ、体力の維持、増進に自ら取り組む姿勢を育む。②体育的活動を通して、生涯にわたって積極的に運動に親しむ習慣を身につけさせる。③自分や身の回りの人の健康・安全や食事について考え、よりよい生活習慣を選択できる実践的な態度を養う。

健やかな体に関わる本校の状況
・授業に取り組む意欲もあり、落ち着いた授業態度である。
・新体力テストの結果、体格はほぼ全国平均並みである。体力としては、2、3年生はほとんどの種目において平均程度、もしくは下回る。1年生はほとんど平均程度である。50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、上体起こし、握力が著しく下回っている傾向がある。このことから、瞬発力、巧緻性、筋力といったものの弱さが見受けられる。
・朝食の摂取率が8割と全国平均よりも低く、睡眠は1・2年生は全国平均より多いが、3年生になると6時間以下の生徒が急に増える傾向にある。また、約7割の生徒が、朝、自分で起きており、基本的な生活習慣は身につけている。
・地域には、サッカー、野球、バスケの小学生向けチームがあるなど、スポーツに親しむ環境がある。その一方で、それらのチームに入っていない生徒は、体を動かすことに慣れておらず、二極化が進んでいるといえる。一部の生徒に繰り返し負傷する実態がある。
・部活動は全校生徒の9割が加入しており、そのうちの7割強が運動部に所属している。

今年度の目標
・体育的活動を通して、積極的に運動に親しむ習慣を身につけ、心身の健康や体力の維持、増進に自ら取り組む姿勢を育む。
・新体力テストの結果を基に改善に自ら取り組む姿勢をつくり、継続的に実践していけるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン
上半期: 第1学年・第2学年: 基本的な技能や知識を学ぶことで運動に親しむ習慣を作り、健康・安全に運動を実践できるようにする。新体力テストの結果を基に自らの体力に目を向け、改善に取り組む姿勢を作る。
下半期: 第3学年: 発展的な技能や知識を身につけ、健康・安全に留意し、生涯を通して運動を豊かに実践できるようにする。新体力テストの結果を基に改善に自ら取り組む姿勢を作り、継続的に実践していけるようにする。